

うしくでびっくり!

NO41

ひたち たけだけのまき

常陸武田史

(我が家歴史) 昭和十二年九月(一九三七年)

第十二代の當主 唯根伊與謹記

さく おくの地区社協
いいだあきお

なっちゃんが、しようじき
ちくのこみちをさんぽしてい
ると おかあさんが、

「このちくでは、**ゆいね**とい
うみょうじがおおいんだよ」
という。

「え！ほんとう。どうしてな
の？」

「ん~、しらないわ」



なっちゃん、おじいちゃんにきいてみることにした。ものをよくしつっているおじいちゃんが、だいすき。

あれあれ、これはおもしろそうと、なぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。どこかな？

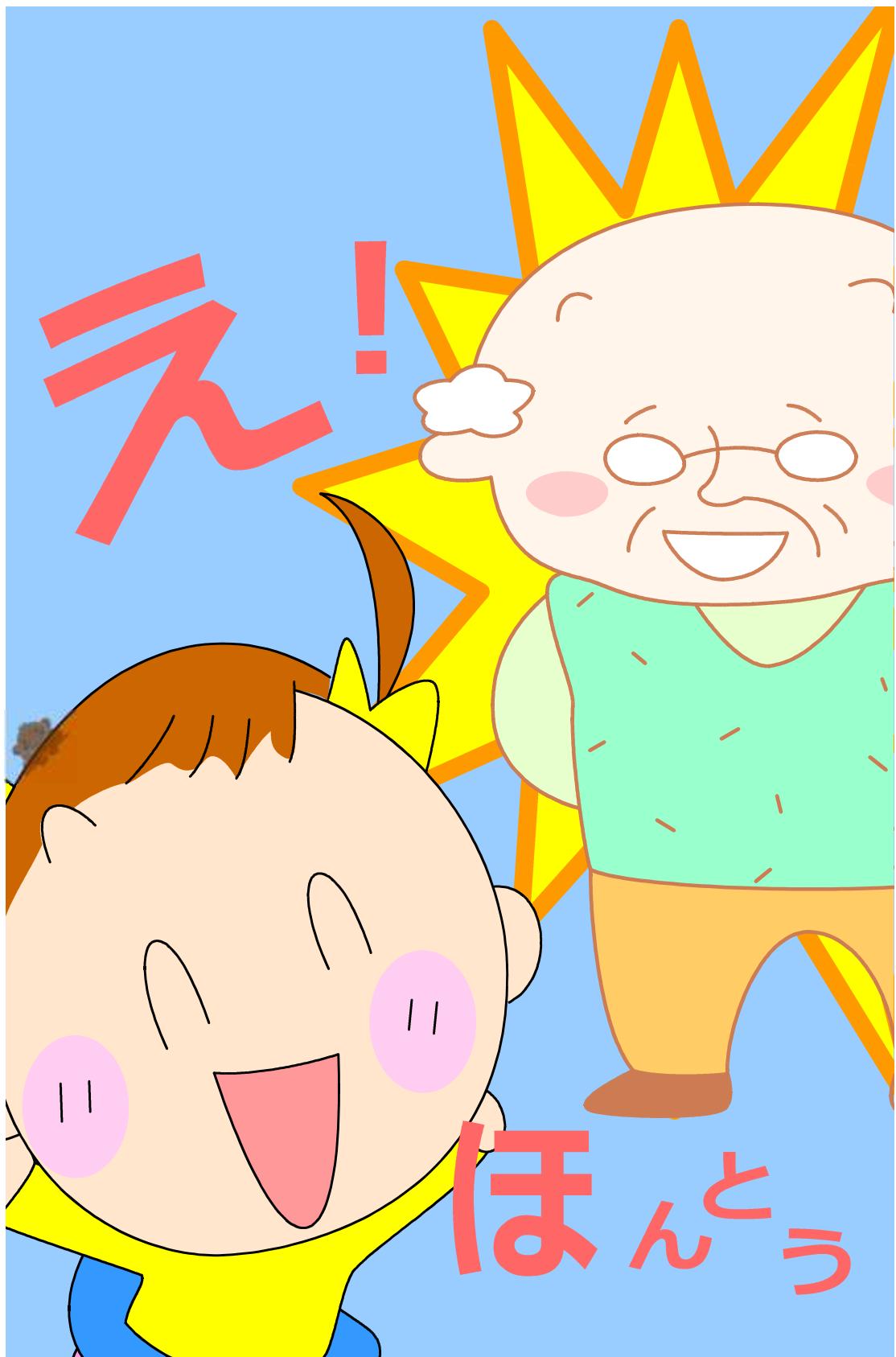


わたしは、なぜなぜでーす。

おじいちゃんに
きいてみると



「そうだな・・・。しょ
うじきには、**ゆいね**とい
うみようじが、10けん
くらいあるとおもった
な。くわしいことは、**ち**
ょうべえさんにきいてみ
るか。いっしょにいって
あげるよ」



やくそくのひ。おじいちゃんと ちょうべえさんのいえにいった。

なっちゃん、ゆうきをだして、ゆいねというみょうじについてきいてみた。

ちょうべえさんが、こたえてくれた。

たしかにしようじきにゆいねというみょうじが、おおいかな。



ほんとう？

おくのちくのちず



しょうじきというちめい
は、せんごくこうき（戦国後期）
のおかみし（岡見氏）のちぎよう
かきあげ（知行書上）のなかに
「正直」（しょうじき）とでてくるだ。こく
だか（石高）は、えどじだいの
げんろくごうちょう（元禄郷帳）
では、やく171こくだ。

ここで、**ゆいね**というみょうじをパソコンでしらべてみた。すると・・・



いばらきけんには
やく 150 にん。

そのうち、**うしくし**には、
やく 120 にん、いるらしい。

そのなかで、

おくばらに やく 10 にん。

しょうじきに やく 90 にん。

たぐうに やく 10 にん。

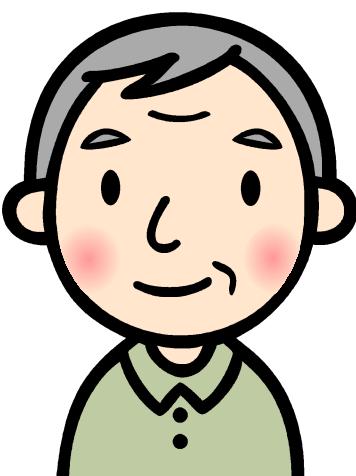
かみやに やく 10 にん。

いるらしいんだ。

(資料 名字由来ネットより)

ちょうべえさんによる
と、しようとじきで、ゆい
ねをなのつているのは、
やく 20けん。うしくし
ないでゆいねをなのつて
いるのは、しようとじきか
らでたひとばかり。

このほかに土浦つちうら、阿見あみ、
稻敷いなしき、東京とうきょうなどに点在し
ているんだ。



びっくり!



やっぱり！

しょうじきに おおいんだ！

びっくり！



どうして？

「ん~、わからないわ」

では、どうして、**ゆいね**といふみようじが、おおいのか
というと・・・。

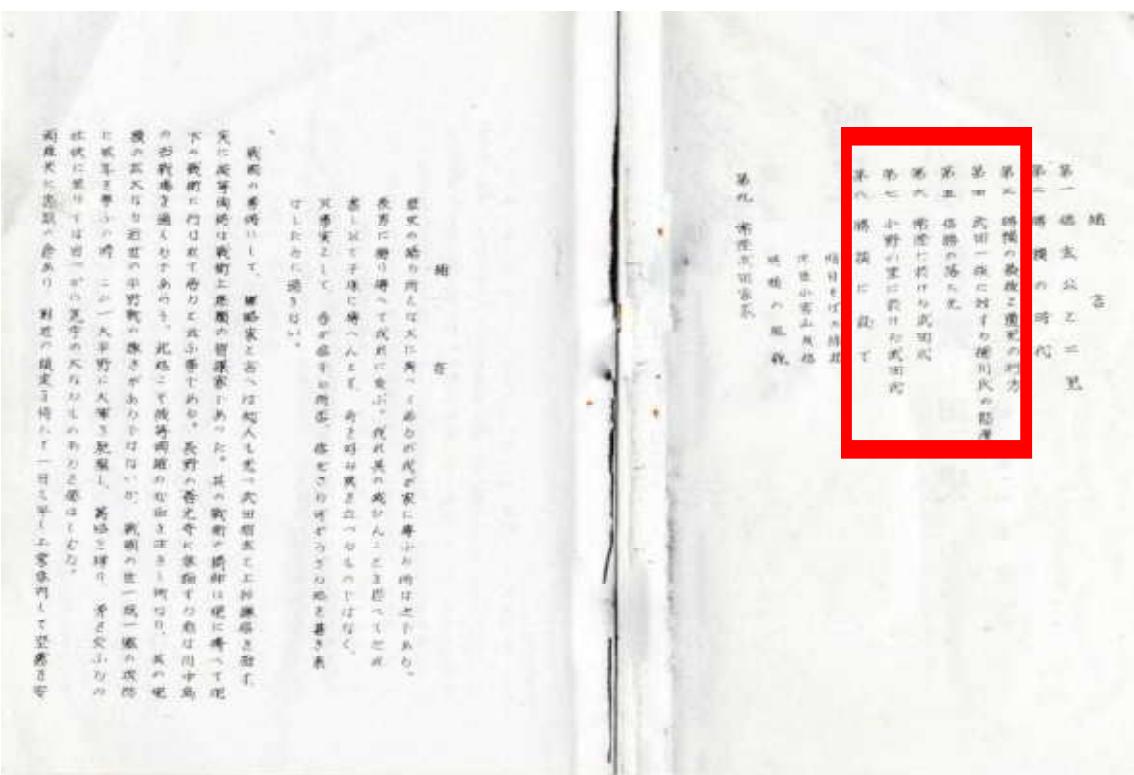
じつはね。こんな**ほん**があるんだよ。この**ほん**は、12
だいとうしゅ唯根伊與さん
が、あらわしたんだ。



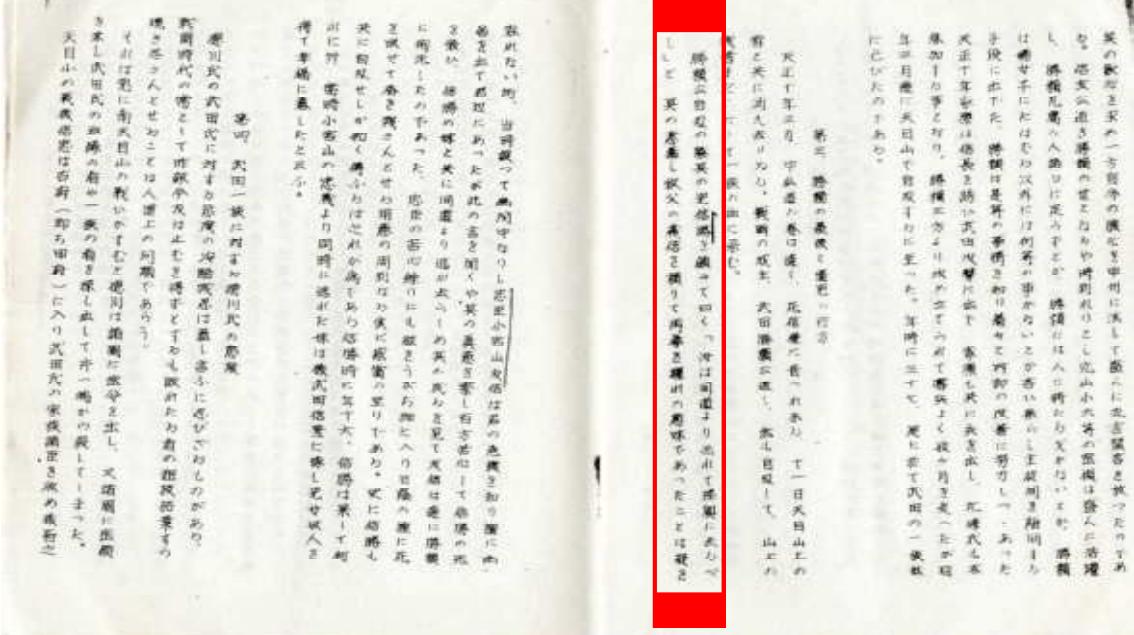
伊與さんは、明治後期から
大正時代に上級官僚として、
かつやくしたひとなんだ。



ほんのないようは、

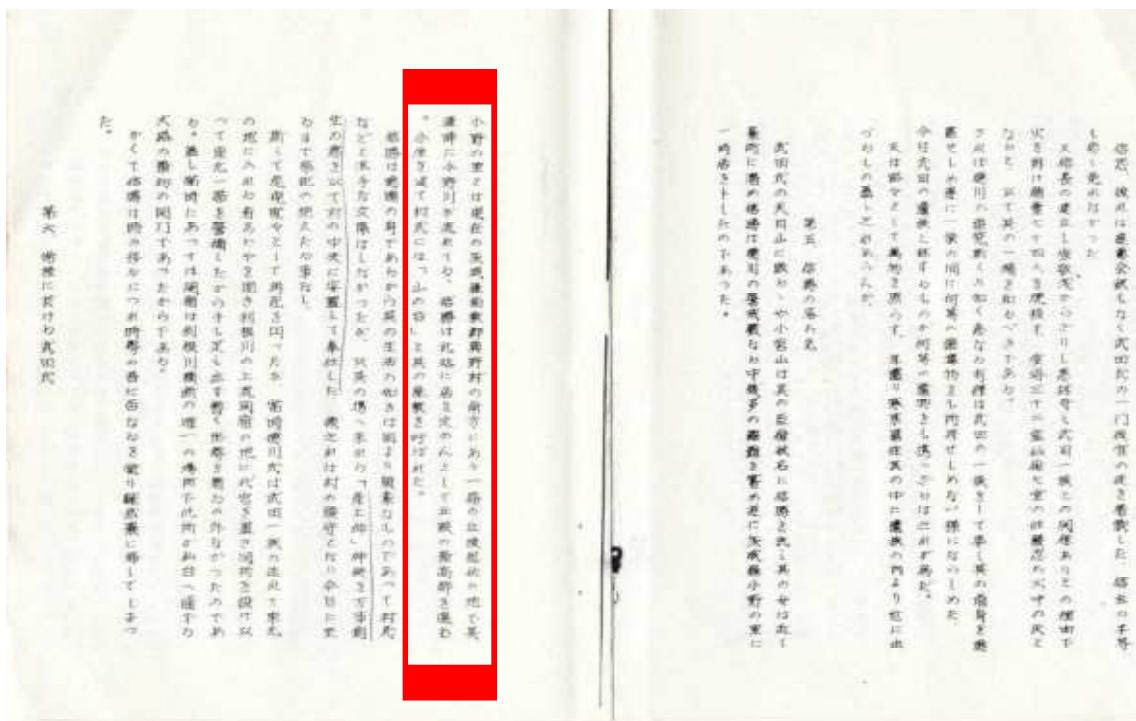


だい
第3 勝頼の子 義信と信勝のゆくえ

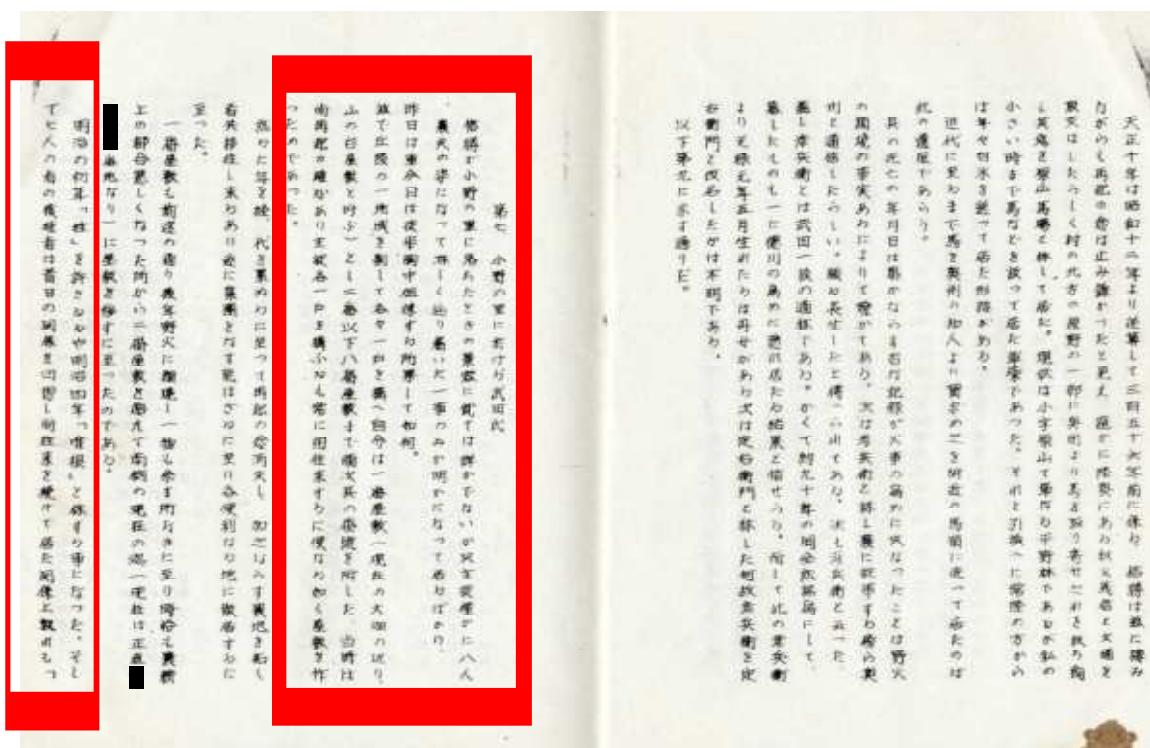


かつより むつ
勝頼が、信勝に「なんじは、間道よりのがれて、陸奥にさるべし」(おじ
よしのぶ かんどう)

だい 第5 おののくむらなんばう のぶかつ かつより 信勝（勝頼の子）のおちさき



のぶかつ おののく むらなんばう
信勝は、小野の里（奥野村南方）にこやをたて、すむことにした。



やまと だい
そこは、「山の台やしき」とよばれていた。

専志、既に御事公武もなく武田氏の一門滅ぼの後を看護した。勝家の子等も勢を免れなかった。
又信長の建法と交渉してからし善林寺と式司一族との間でありこの理由で
火を附け難事にて四人を説教す。當時三十一家の御殿主の御殿守が大半の民衆
なりて、只十人の一體とむかへてあり。

又火を用ひる御火敷へ入る者なり有りは丸三の一派として奉し其の自身を越
過せし者に「第一の用に御火へ御事功と内井せしめな」様になつめた。

今日丸三の過失に付くもの御事功と御事主も傳されば二日ぞ過だ。
又は御事主として萬物を頂く。且度り御事主御事主の中には御事の門より也に出
づくもの無とぞ思ふ。

第五 御事の事わら

武田氏の天下より脱り、や小笠山は其の臣曾我氏に移封と云ふ。其のせは故に
豪族に過る過失は幾處の豪族ならむ守備兵の過失に於て御事主の馬頭の東に
一時落としたのであつた。

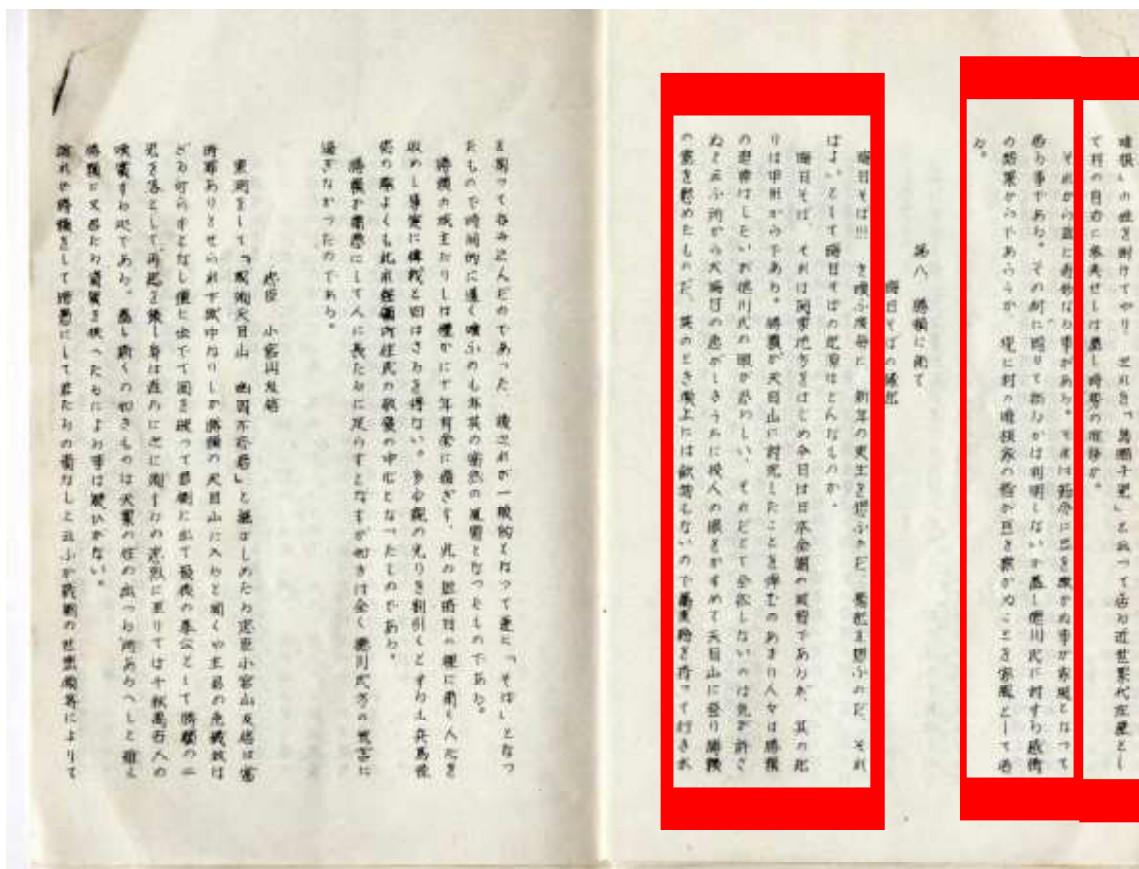
天正十一年は西和十二年より逆算して三四五十次年間に亘り、勝勝は既に隠れ
たがゆも再びの意は正み難かず反ぞ見え、遂に隠匿にあり候え爲君と大通と
致死はしたゞしく村の北方の屋敷の一軒に奥的より馬を駆り寄せござる我の御
し其馬を堅ム馬等と称して候だ。現成は小笠山と堅吉の半牛林であるが私の
小さい時より馬などと抜けて居た事無くあつた。そのと引換へに家臣の方から
は年々日本を越す者と船宿があり。

世代に更にまで馬と異別の如くより實子の二き御主の馬頭にて御主の御
船の運送であらう。

其の死の年月日は豈かのまじねば記録が大事の漏れに気はつたことは専大
の御身の事わらによりて發がて居ら。又は考兵衛と將と義と既手すり廢ら美
村と御事したらしい。歳を長せしと傳へ云て居る。又と考兵衛と共に一た
事と本兵衛とは武田一族の通称であり。かくて御九十年の間全兵衛局にして
暮したものも一に通称の通称にて御事居たる結果と傳せつり。而して此の通称
より天保元年五月生れたちは母せかあり父は改名御門と称した朝政兵衛と定
む御門と改名したければ不明下アリ。

以下第6に至る通り。

そして・・・



ゆいね
めいじ4ねん、いちぞくは、「唯根」となのるようになった。しようや(のうみんのとりまとめ)などもつとめたんだ。



主張つて争ふところであった。後されば一蹴的とはづて遠ミ「そゆ」となつたもので時間的に遙く噴ふれし井戸の蜜柑の風潮とびつたものであつた。
藤原の城主たりしは櫻井にて年有余に過ぎず、此の豊前守へ裡に廻り人を遣し、
城内に専意に傳教と仰はれる得ない。多牟院の先立割引とすり上兵馬長
若の奉よくも此井戸の蜜柑の販賣の中止となつたのである。
藤原が蜜柑にして人に長たるに足らずと乍らおまけは全く農川式方の蜜柑に
迷ひかかったのであり。

感想 小宮山及慈

東河主として農川天日山、西河不吉君」と詠はしめたる遠世小宮山及慈は嘗
所嘗りてその利子天日山なりし蜜柑の天日山に入りて聞くや主易の危険故は
ども守らざるをなし便に出てて園を破つて蜜柑に於て蔓飛の暴云として勝蘭の二
君を名として再起と號し君は直乃に於て贈すのみの意烈に至りては十載萬石への
喰實すわざである。轟と歎くの如きものは天災の性の故つむ所あらへしと確
然と又恐だら貴賤と號へたものより手は震ひがない。
而れや勝蘭として培養にしてまたの効力しこと小河農川のせ蜜柑等によりて

これらのいえいえでは、じ
つにふしぎなことが・・・。
それはね・・・。

せつぶんに まめを まかな
いんだよ。

びっくり！

わけは、はつきりしないが、
徳川氏にたいする はんかん
がそうさせたのかもしけない
ね？ 

まだまだあるよ。大晦日そ
ば（としこしそば）のきげんは、甲
州から。なんでも、**ばくふ**に
わからないように、いそがし
いおおみそかに てんもくざ
んにのぼり、**かつより**のれい
をなぐさめたのが、はじまり
だというんだ。



かつよりのちちといえば、

びっくり！

あの



たけだしんげんだ

たけだしんげん

は、
もっとも ゆうめいな せん
ごくだいみょうのひとり。う
えすぎけんしんとたたかった
かわなかじまのたたかいはゆ
うめいた。



(歴史トラベルより)

でも、このたたかいのしょうぶは、つかなかつたんだ。そのご、**きょう**をめざしたが、そのとじようで、なくなつたんだ。

信玄には、こどもが、ふたり。
ちようなん義信、じなん勝頼だ。
義信は、陸奥の南部氏にみをおいていた。信玄のさいだいりようちは、このほんい。



(歴史トラベルより)

しんげん
信玄なきあとあとをつい
だ勝頼は、しなのいっこくを
てにいれ、このはんいままでり
ょうちをひろげたんだ。

びっくり！



(歴史トラベルより)

しかし、たたかいにまけて、
天目山でじがいしてはてた。

※ここで、ミニミニじょうほう。

よく「**無能の愚将**」とい
われる勝頼だが、じつは、
父信玄よりひろいりょうど
をかちと
ったじん
ぶつ。

能力が
あり、実
績もあつ
た武将だ
つたん
だ。



(ウィキペディアより)

びっくり！

そのとき、勝頼は、むすこ
のぶかつ
信勝に

「なんじは、間道よりのがれ
て陸奥にさるべし」
といつた。

それをきいた
ちゅうしんこみやまとも
忠臣小宮山友
はる
信が、くろう
して、信勝がし
んだことをよそ

おって、7にんのけらいをつ
けてのがしてくれた。

いっこうは、いわれたとお
り陸奥にむかつた。



ウィキペディアより

しかし、徳川氏が、それを
おそれ関宿(利根川をわたるゆいいつのばし
よ)に關所(仙台につうじるみち)をつく
つて、それをそし。

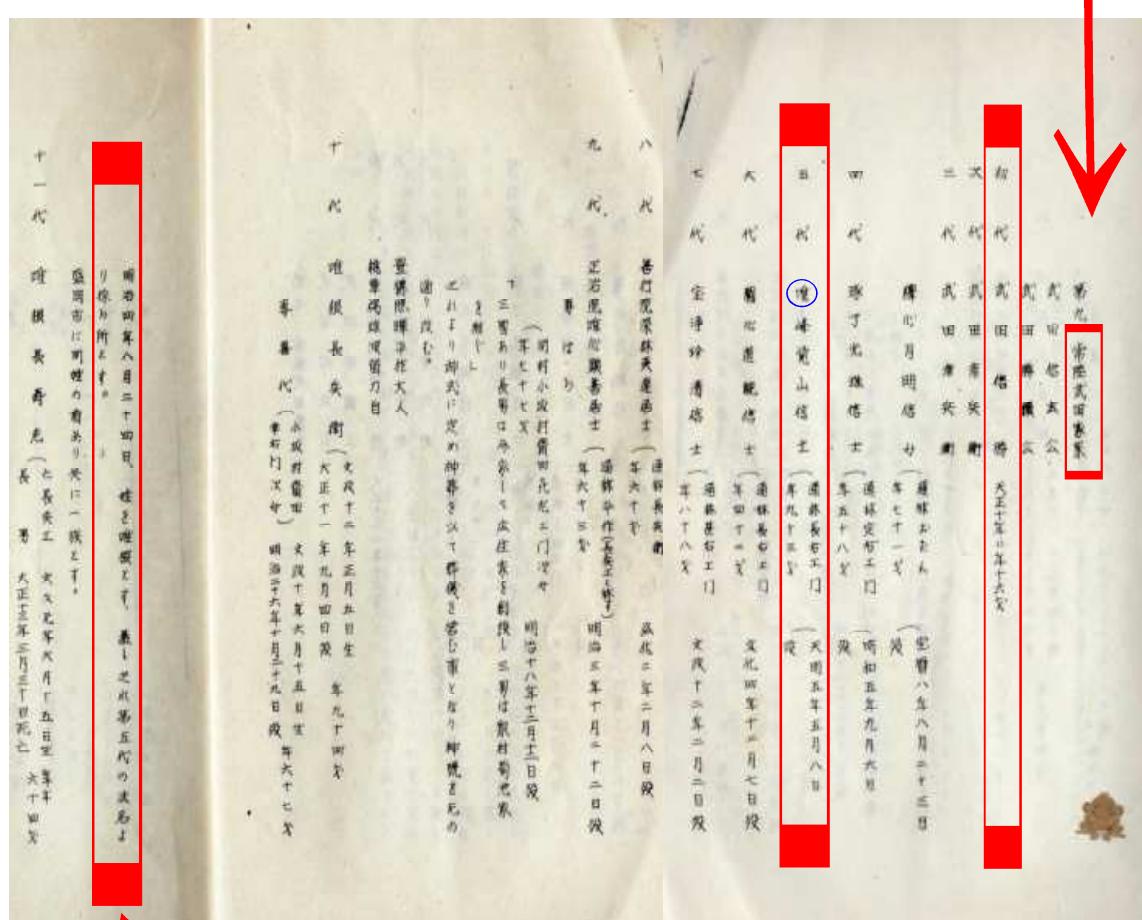
そのため、べつのみちをも
とめて、このちにのがれ、す
むことになったんだ。

これが

ひたちたけだかけい

常陸武田家系

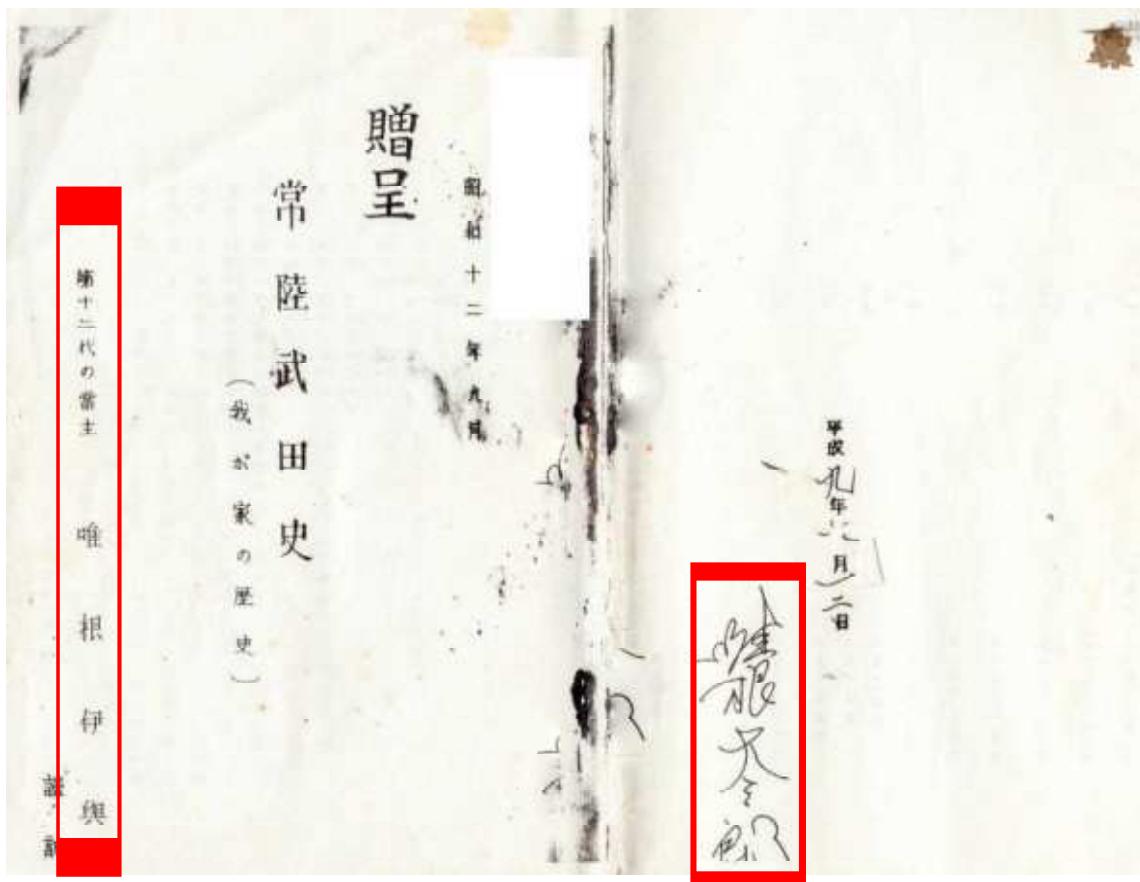




5だいめの法名の一字をとつてせいを**唯根**とし7にんの継承者につけられた。ちなみに、12だいめが、このほんをかいだ唯根伊與さんなんだよ。



その3男が、**大三郎さん**（弁護士としてかつやく）。だい13だいとうしゅだ。ちょうべえさんにこのほんをおくったひとだ。



すごい

でも、だいさぶろう大三郎さんは、どうしてちようべえさんちょうべえさんにこのほんをあげたのかな？

じつはね。ちょうべえさんは、7にんのけらいのまつえいだったんだ。

だからひたちたけだし常陸武田史をいただくことができたんだよ。

あ！ そうか
そうだったのか

ゆいねけ
唯根家は、
ひたちたけだかけい
常陸武田家系なんだ。

なっちゃん、びっくり！

そして

おおよろこび

おじいちゃんも、**武田信玄**
のまご**武田信勝**が、さいきを
はかるためにしようじきにす
んでいたことに
そして、その末裔が、いま
なお がんばっていることに

びっくり！

おりしもおくのちくには、
かまくらかいどうがある。



ここを、小田氏をたおすために上杉謙信が、とおった。



それはね、小田氏は、はじめ上杉謙信にしたがったものの、たいりつする佐竹氏を牽制するため、北条氏にぞくすことにしたからなんだ。そのため、小田城は上杉氏や佐竹氏にせめられることになったんだ。

か わ な か じ ま し ゆ う
川中島で雌雄をあらそつた
ふたりが、このちでふたたび
であったようなきがした。

あ～たのしかった

と ふたりは ちょうべえさんに
おれいをいって、おじいちゃん
とかえっていった。

なっちゃん、やっぱり、
ひ た ち た け だ か け い ゆ い ね け
常陸武田家系 (唯根家)
は、おくのちくのたから
もの一つだということ
が、よくわかった。

さて



こんどは、なにを しらべようかな？

あれあれ？「すごーくたのしかった」と なぜなぜくん。つぎのひみつをもとめてスキップしながら かえっていった。



またね

参考文献 常陸武田史